

三之丸跡は城跡の南端にあり、東西約 600 ～ 470m × 南北約 100 ～ 220m の規模です。館小路（現在の鳥谷崎神社から裁判所まで）と呼ばれた三之丸を東西に貫く道路が通り、その南北両側には「花巻御給人」の武家屋敷が配され、敵の侵入を防いでいました。

現在の三之丸は住宅や公共施設など後世の建物が多く集中していますが館小路を挟み松川家と伊藤家の2軒の武家屋敷が残り、往時の雰囲気を感じられます。

三之丸では、これまでに個人住宅建設やレーダー探査などで 22 回の調査が行われています。先述のとおり三之丸には武家屋敷が建ち並んでいたため、調査をするたびに多くの柱穴が見つかります。25 次調査（戸田本蔵屋敷跡）では、柱穴が 500 基以上と井戸跡 2 基・溝跡 3 条などが見つかりました。遺物は様々な産地の陶磁器やいぶし瓦と呼ばれる表面が灰色の瓦、釘・古銭などの金属製品、漆椀なども見つかりました。井戸

跡からは、南部氏の家紋である向鶴文が施された軒丸瓦が見つかりました。軒丸瓦は南部氏の居城であった盛岡城でも出土しています。



向鶴紋 軒丸瓦 (平成 21 年度調査)